安来市議会
受付
28. 5. 25

行政視察等報告書

安来市議会議長　様

報告者　公明党
佐々木厚子

この度、行政視察を行いましたので報告します。

記

期　　日　　平成 28 年　5 月 12 日（木）　～　平成 28 年　5 月 13 日（金）

行　　先　　市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）

日　　程　　別紙のとおり

参 加 者　　佐々木厚子

合計　1 人

視察内容　　別紙のとおり

研修参加報告

（　公明党　）

＜視察目的＞

各自治体が直面している「政治」「経済」「地方創生」「地域づくり」の課題について、最新の情報をもとに講演を聞き、本市の活動に活かせないか研究・検討する。

＜講演概要一覧＞

視察月日	講演テーマ	講師
5/12	○脱成長社会に向けて	京都大学名誉教授　佐伯啓思氏
	○地方議会から国政を視る	NHK 解説委員室解説副委員長　島田敏男氏
5/13	○地方創生と地方議会の役割	読売新聞東京本社編集委員　青山彰久氏
	○人口減少時代の地域づくり	弘前大学大学院地域社会研究科長　北原啓司氏

＊市町村議会特別セミナー参加者：141 名

＜講演概要報告＞

1．「脱成長社会に向けて」

◆講　師：京都大学名誉教授　　佐伯　啓思　氏

◆概　要

(1) 人口減少時代に突入した日本の現状について

(2) アベノミクスの評価について

(3) 日本経済の低迷の原因について

(4) 市場競争理論について

(5) 地方創生による日本ビジョンについて

(6) 日本社会の次期モデル構想について

＊上記内容について講師本人の考え方を聴く。

◆所　感

佐伯教授は、成長し続けてきた日本がこれからは、車もいらない、服もこれ以上いらない、TV も大きいものはいらないなどと価値観が変わってきている。では何もいらないか？といえばそうではない。必要なものはある。年をとっても楽しめる空間、病気になっても安心して受けられる医療など、そういうシステムがほしい。など、今、国民が望んでいるのは、このような事だと言われました。

とても考えさせられました。自身の考え方、捉え方を変えていかないと今の時代にマッチした提案などできないと思いました。

２．「地方議会から国政を視る」

◆講　師：NHK 解説委員室　解説副委員長　　島田　敏男　氏

◆概　要：別紙資料

（1）投票率の推移について

（2）“18 歳選挙権”について

（3）内閣支持率について

（4）伊勢志摩サミットについて

（5）消費税率 10%への引上げについて

（6）政党支持率について

（7）集団的自衛権について

＊上記内容について世論調査結果をもとに現状を解説する。

◆所　感

各地域の中で有権者は今政治はどのようになっているのか教えてほしいと思っている。その人たちをどのように解きほぐしていくのか。それが議員の務めである。と今年から 18 歳選挙権が施行されますが、5 年前東日本大震災を経験した当時の 14，5 歳の子供たちが選挙を行うことになります。この子たちは感性が違うとのこと。「先輩選挙行かないんですか？」などと無党派層の人たちに言うようなことになるかもしれまん。色々と考えていくことのできる若者を増やしていかなければいけないと思いましたし、無党派層の方たちに政治についてどのように伝えていくのか、こちらも真剣に取り組んでいかないといけないと思いました。

３．「地方創生と地方議会の役割」

◆講　師：読売新聞東京本社編集委員　　青山　彰久　氏

◆概　要：別紙資料

（1）問題を考える手がかりについて

（2）地方議会と地方議員について

（3）地方創生と地方自治体について

（4）三つの論点について

（5）「脱工業化」「脱都市化」「田園回帰」の概念について

（6）視点は「住み心地よき地域をつくる」について

＊上記内容について新聞編集委員という立場から考え方を聴く。

◆所　感

地方議会は「住民の広場」、地方議員は「地域づくりの専門家」であると言われ、私たち地方議員は「住民の生活感覚」を基に役所文化では生まれない感性等を備え、

地域全体を政治的に統合する専門家という姿になる。と冒頭言われ、納得しました。その地域づくりの専門家として、今、地方創生ということで全国各自治体が様々な取り組みを始めています。その取り組む姿勢が「国に顔を向けるのか」「住民に顔を向けるのか」それで変わると言われました。私は、もちろん「住民に顔を向ける」ものでなくては意味がないと思っています。現場の声、一人の声を大事にしていってこそ地域は変わると思います。議員として、責任持って取り組んでいきたいと思います。

4.「人口減少時代の地域づくり」

◆講　師：弘前大学大学院地域社会研究科　研究科長　　北原　啓司　氏

◆概　要：別紙資料

(1) 成長社会から成熟社会へのシフトについて

(2) 成熟社会のマネジメントについて

(3) まち・ひと・しごと創生戦略の登場について

(4)「空間」を「場所」に変えるための人材育成について

(5) 超高齢社会に必要なキーコンセプトについて

(6) 真のコンパクトシティ政策における「まち育て」について

＊上記内容について「住民参加型まち育て」を実践している経験をもとに考え方を聴く。

◆所　感

日本は成長拡大し続けてきた。これからは新しく何かを行うのではなく、今あるものをどう活用し生かしていくのか。例えば、「空間」に人々の想いと活き活きとした行為が加わるとそこは「場所」になる。また、コンパクトシティーとは形がコンパクトではない、コンパクトなライフスタイルを実践することであると言われました。正直私の中にこのような発想はありませんでした。

発想を大きく転換する機会をいただいたように思いました。

以上４つの講演を伺い、共通点も多々ありましたが、一番思ったことは、既成概念にとらわれず、まず自分はどのようなまちづくりがしたいのか？それに向かってどうしたいのか？そして今の自分に何ができるのか？など、自分の考えをきちんと持ち進んでいきたいと思いました。とても充実した２日間の研修でした。

以上